

現代の名工に富永さん

1級造園士 史跡復元などに尽力

卓越した技術者を表彰する本年度の「現代の名工」百四十九人が二十一日、厚生労働省から発表された。県内では一般造園技師士の大村市塩平町、造園会社社長富永和博さん全名が選ばれた。県内の表彰者は制度開始の一九六七年以降、五十

四人目、造園では三人目となる。

富永さんは五九年以来、造園業の道を手伝ってきた。建物の庭、公園との調和を考慮し、四季を調しめる作庭が高い評価を受けている。公共造園も数多く手掛けており、同市史跡に指定された旧

大村藩の武家屋敷復元工事にも尽力した。

表彰式は二十二日、都内であり、厚労大臣から卓越技術者と表彰状が贈られる。



自ら描いたイメージ図を手に、表彰を喜ぶ富永和博さん

「イメージにこだわりの」

表彰を素直に喜びたい富永さんと同時に、名前に恥じない仕事が求められる重責も感じている。「今後もしつかり」という自分への励み、ステツマとして受け止めた。

数年をかけている寺の改修では、設計院を招く前に宗源本山のある京都へ、寺境内の地とされる法隆寺まで出張した。イメージの本意をまげ、外観、建物も含めた造園全体を描いた。「こだわりの持って仕上げた造園が完成するのは大きな喜びだ。

造園の世界でも水の浄化システムの提案など環境保護に関心をもち始めた。自然も自然に生かされているという「こと」を大切に、その「投資」を大切にしたい。